



学校教育目標
自分や相手を大切にし、
自ら考え行動する名瀬っ子

名瀬小だより

11月号

令和4年10月31日
横浜市立名瀬小学校
校長 中嶋 孝宏



青春って『密』

副校長 太田 理絵

今年の夏、私は大好きな高校野球に夢中になっていました。決勝戦は強豪大阪桐蔭、近江を破って勝ち進んできた山口県代表下関国際高校 対 東北勢初の優勝を狙う宮城県代表仙台育英高校。結果は予想を上回る多彩な戦術を見せた仙台育英高校が、春夏通じて初優勝。『深紅の優勝旗がやっと白河の関を越えた』と、テレビ各局で地元仙台の歓喜に沸いている様子が伝えられていました。私はどの試合も感激して観ていましたが、中でも優勝した仙台育英高校 須江監督の優勝インタビューには心を打たれました。

須江監督はインタビューの中で、コロナ禍で育った今年の3年生について「入学どころか、たぶんおそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて。」と振り返り、「青春ってすごく密なので。でもそういうところは全部ダメだ、ダメだと言われて。」「でも本当に諦めないでやってくれた。」と選手を讃えていました。そしてさらに「ただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたら。」とも加え、コロナ禍で活動を制限されている全ての高校生にもエールを送っていました。全国の高校生が置かれている状況を理解し、気持ちに寄り添い、選手とともに歩んできた監督だからこその言葉だと思いました。

本校でも、この3年間で教育活動が大きく変わりました。給食は全員が前を向いて黙食。再開した水泳学習も声を出さず、間隔を空けなければなりません。歌唱の授業では互いの歌声を聴きたくても、対面での歌唱はできず、鍵盤ハーモニカやリコーダーの演奏はマスクを外さなくてはならないため、最小限の時間で演奏をしています。3年生以下の子どもたちに至っては、給食は黙って食べる経験しかしていません。でも、本当は友達とおしゃべりしながら楽しく給食を食べたいし、思いっきり泳いだり歌ったりしたい。

【抜粋】仙台育英高校 須江監督 優勝インタビュー

宮城県の皆さん、おめでとうございます！100年開かなかった扉が開いたので、多くの人の顔が浮かびました。

～抜粋～

入学どころか、たぶん、おそらく中学校の卒業式もちゃんとできなくて、高校生活っていうのは、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんですね。

青春って、すごく密なので、でもそういうところは全部『だめだ、だめだ』と言われて、活動していても、どこかストップがかかって、どこかでいつも止まってしまうような苦しい中で、でも本当に諦めないでやってくれたこと。

でも、それをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、やっぱり全国の高校生のみなが本当によくやってくれて、例えば今日の下関国際さんもそうですけど、大阪桐蔭さんとか、そういう目標になるチームがあったから、どんなときでも諦めないで、暗い中でも走っていったので、本当にすべての高校生の努力の賜物が、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。

『学校生活も密』なんです。当たり前に行っていたことができなくなった状況の中、それでも楽しく過ごせるようにと、子どもたちは、様々な工夫をしています。今年は3年ぶりに4・5・6年生の宿泊学習も再開できました！今年度も折り返し、後半戦となりました。物理的な密には配慮しつつも、心理的な密は図っていきたい。須江監督の言葉に刺激を受け、そんな思いを一層強くしました。